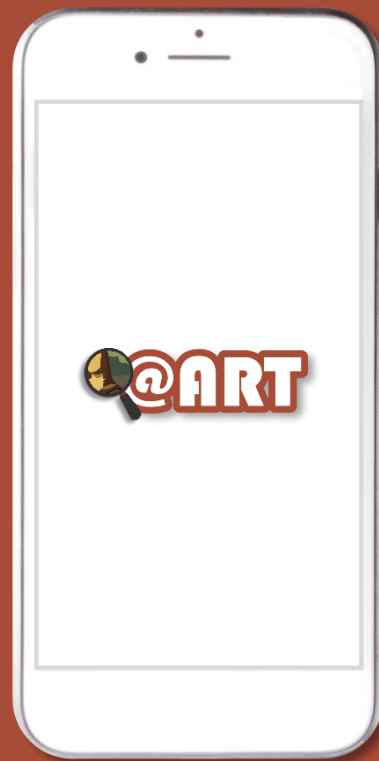


アート、探すなら



「現代アート」をもっと知ってもらいたい！

図1のグラフは、美術品市場の取引額の国別割合を示したグラフです。

日本はわずか3%しか占めていません。

図2より、3%の内訳を見ていくと、洋画や陶芸の割合が高く、現代美術の割合が低くなっています。

したがって、日本での現代美術への理解や認知度はまだまだ低いと考えられます。

近年、森美術館での世界的な現代アーティストによる展覧会開催が話題になるなど、現代アートに対して親しみやすい印象がついてきたのではないかと思います。しかし、「取引」という観点から見ると、現代アートの重要度は低いのではないのでしょうか。

「現代アート」の理解度や関心を高めるには？

美術品市場の割合の高いアメリカやイギリスでは、パブリックアート（オブジェなど）やグラフィティアート（いわゆる落書き）が街の中に多く存在し、世界的に有名な美術館や画廊がたくさんあるので、「街」「人」と「アート」が密接に関わっているのです。

それから、有名な現代アーティストが多いことも高い割合を占めている理由の一つとして挙げられます。

日本国内で現代アートの関心を高めるには、まず現代アーティストや画廊、美術館の存在を知ってもらう必要があります。

図1、図2 出典：「日本のアート産業に関する市場調査2020」（一社）アート東京、(株)QUICK

<https://artmarket.report/>

※グラフは加工して使用しています。

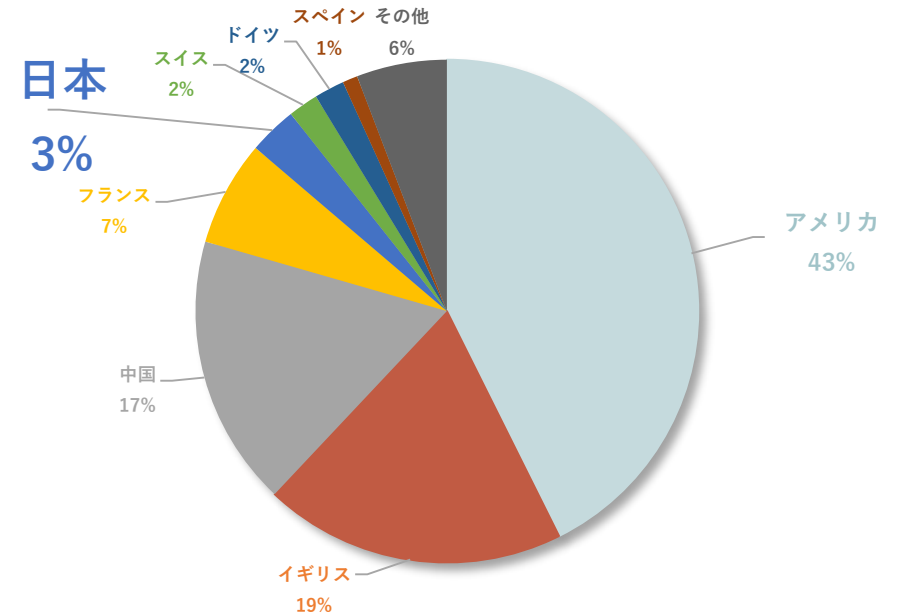


図1 世界の美術品市場の国別割合（2019年）

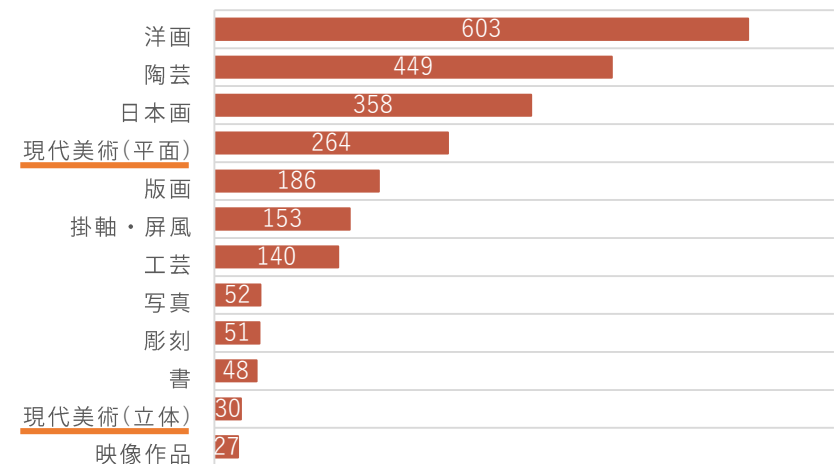


図2 ジャンル別市場規模（2020年）

「現代アート」への関心が高くなると……

- ・現代アーティストや画廊（ギャラリー）の知名度が上がれば、現代アートを所有したい人が増えて、日本のアート市場の取引額も必然的に増える。
- ・アートの取引額が増えれば、アートの国として注目されるようになる。
- ・アートが設置されている町、地域の宣伝に繋がる。
- ・副業をしないと生活できないアーティストの仕事が増える。
- ・美術系の学校に対する関心が高くなり、より美術教育に力を入れるようになる。

ターゲット

- ・現代アートが好きの方
- ・現代アートを購入してみたい方
- ・展示する作品を販売したい方
- ・美術に関心が無いわけではないが、入口がわからない方
- ・様々な現代アートを見てみたい、触れてみたい方
- ・現代アートがよくわからない方
- ・旅行先で美術館や画廊に立ち寄りしたい方
- ・現代アートの取引に興味がある方

使用するオープンデータ

- ・展覧会のポスター、DM、チラシ
- ・美術館やギャラリーの位置情報
- ・芸術作品のジャンル情報
- ・芸術作品の解説
- ・美術館、博物館の収蔵作品
- ・美術館やギャラリーの所属アーティスト

※赤字は架空のオープンデータです。

左図は、美術館に来場する促進策のアンケート結果の抜粋です。展覧会の情報や、作品の解説を求めている方々が一定数存在していることがわかります。そういったことから、後述の「解説」機能を考えました。

アンケート出典：文化に関する世論調査 報告書 平成31年 文化庁
https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/pdf/r1393020_01.pdf
 ※グラフは加工して使用しています。

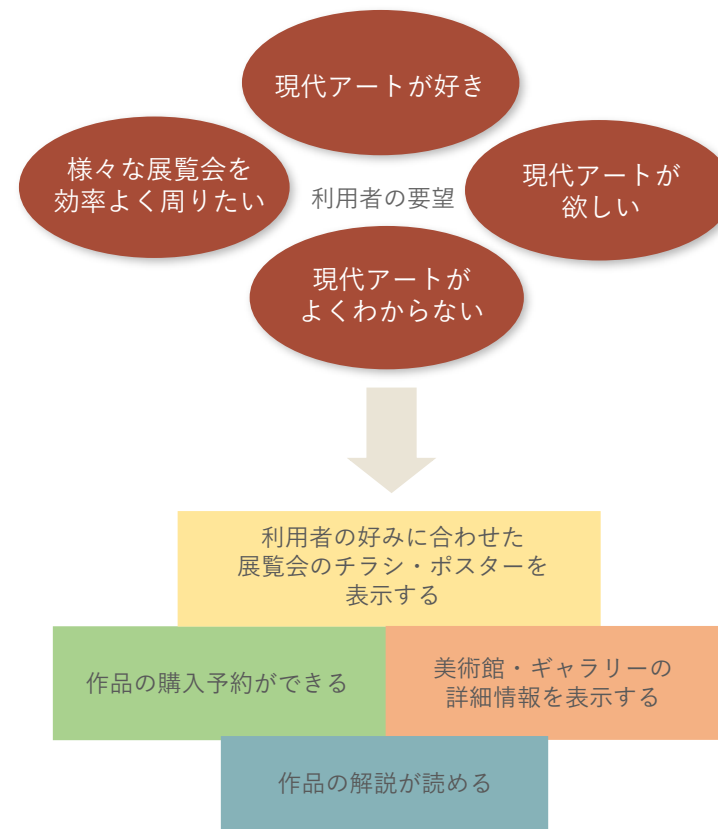
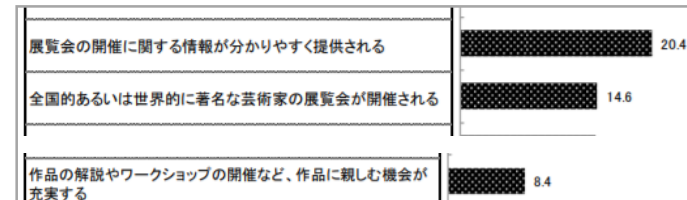


図3 アプリの機能イメージ



美術館・博物館での鑑賞の促進策

①ジャンルと現在地を設定する

①お好きなジャンルの選択を行っていただきます。
(複数選択可)

選択する際は、**チェックボックス**をタップして
いただくと選択できます。
画面両端の矢印ボタンで、違うジャンルの画面に
スライドします。

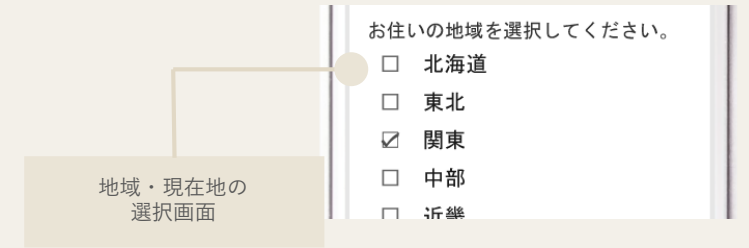


ジャンルの説明が書いてあるので、**現代アートがよくわからない方**でも安心してご利用いただけます。
何のジャンルを選択するかは、いつでも設定から変更
することが可能です。この画面をスキップすることも
できます。



★スキップをタップすると選択画面をスキップ。

②住んでいる地域や現在地を選択。チェックボックス☑
に✓を入れる。(「設定」から変更可能)
アプリを利用する状況に合わせて、現在地や利用者の
住んでいる地域を選択していただきます。



③「お気に入り」からお気に入り
登録した美術館やギャラリーを
確認できます(後述)。「設定」
機能から全ての画面へ遷移する
ことが可能。
「予約」から後述の「購入予約」
機能で予約した作品を確認する
こともできます。

タップするとそれぞれの
画面に切り替わる

「設定」機能から、ジャンルや
現在地はいつでも変更可能。

②おすすめの展覧会を表示する

★選択したジャンルや現在地から、開催されている展覧会のオープンデータを利用して、チラシやポスターを表示します。



タイトル：写真展
ジャンル：写真
会場：[〇×画廊](#)
入場料：300円
解説：有
作品の購入予約は[こちら](#)から



展覧会の詳細

こちらを選択

①機能は「おすすめ」のまま。予約画面に遷移する

会場の写真やイメージ

〇×画廊を選択

①詳細なギャラリーの情報を表示する。「さがす」に遷移する。

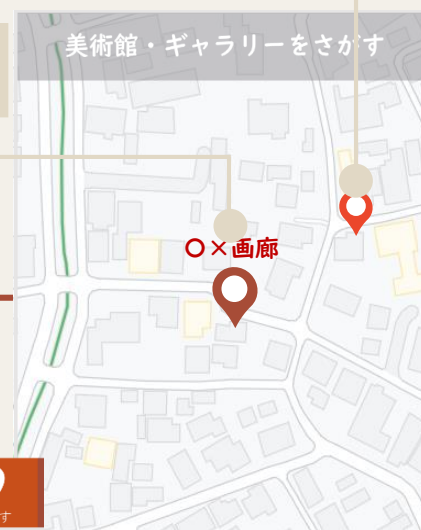


星マークをタップするとお気に入り登録できる

美術館・ギャラリーの位置にピンが立つ

住所を選択

②位置情報を表示する



お気に入り登録した美術館（ギャラリー）も表示

作品の購入予約

¥5000	サイズ 300×180 制昨年 2021 予約する	
¥6000	サイズ 300×180 制昨年 2020 予約する	
¥10000	サイズ 300×300 制昨年 2017 予約する	

※予約のみになりますので、必ず購入できるとは限りません。
※予約の際には個人情報を入力して頂く必要があります。

作品の写真

予約するを選択

②予約を確定する画面。
より詳細な情報と、個人情報の入力（次ページ参照）



¥6000

製作者 山田太郎
制昨年 2020
サイズ 300×180

[予約](#)

(個人情報入力画面へ)

★個人情報入力画面

前ページの[予約](#)をタップすると、こちらの画面に遷移します。
作品の購入予約をするにあたって必要な個人情報を登録していただきます。

作品の購入予約

1. お名前 ※必須
2. フリガナ ※必須
3. 生年月日 ※必須
4. 郵便番号 ※必須
5. 住所 ※必須
6. 連絡先 ※必須
7. 職業 ※必須
8. E-mail ※必須

おすすめ さがす 解説 設定



作品の購入予約

電話番号を入力してください

①全ての情報を入力すると、携帯電話番号を入力する画面に遷移します。
SMSに暗証番号が送られます。

生年月日と職業は
選択形式

ここをタップすると
おすすめに戻る

作品の購入予約

登録が完了しました！
ギャラリーからの連絡を
お待ちください。

[おすすめにもどる](#)

作品の購入予約

確認コードを入力してください

* * * *

②SMSで受信した暗証番号を入力すると、登録完了となります。
2要素認証を利用しているため、個人情報漏えいの心配はありません。



③登録完了画面です。
あくまで「予約」するだけなので、購入が完了するわけではありません。ここから先は販売元のギャラリーとメールでやり取りして頂く形になります。
やはり芸術作品をアプリ上で取引するのは、ギャラリーや作家側の意向があったり、買う側も実物を見て決めたいのではないかと思います。
以上のことから、この「購入予約」機能は、作品の販売・購入をお手伝いするにとどめる機能としました。

③作品のQRコードを読み取って作品の解説を表示する

★今までわからなかった、または解説が足らなかった、芸術作品の解説を無料で、耳で聞きながら、作品鑑賞することが目的の機能です。

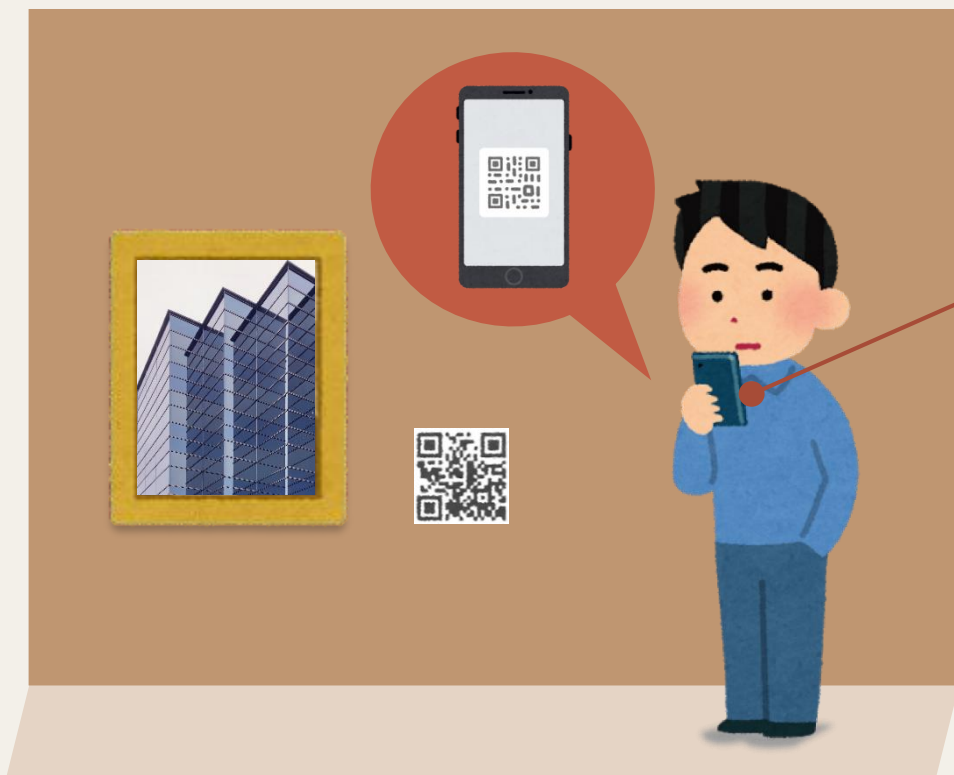


図4 QRコードを読み取って作品の解説を読むことができる



題名 : ビル
制作者 : 山田太郎
制作年 : 2021
ジャンル : 写真
素材 : ゼラチンプリント

作者の地元の風景である。高層ビルのガラス張りの部分が互いに反射しあって、興味深い模様が生れていたの思わずシャッターを切った。写真をアートとして展示することの意味を考え、日常生活の中にそのアートが潜んでいると



おすすめ さがす 解説 設定

芸術作品の近くに設置されたQRコードを読み取ることで、作品のコンセプトや解説を、作品画像とともに表示します。(図4)

全国の美術館・画廊（ギャラリー）と提携し、作品のコンセプトや解説をアプリに登録していただきます。

企画展やその他展覧会の際に、来場者にダウンロードしてもらうことで、画廊（ギャラリー）の存在を知ってもらうことや、芸術作品販売の促進にも繋がります。以下の図はその流れを表したものです。

芸術作品の解説を知りたい

アプリをダウンロード

芸術作品の解説

芸術作品の販売・購入

おすすめ展覧会の提示

ギャラリーの存在

音声読み上げソフトを使用した音声読み上げ機能。タップすると再生されます。アートを鑑賞しながら解説を聞くことはもちろん、目の不自由な方でもアートを楽しむことができる可能性があります。自分のスマートフォンで気軽に解説が聞けるという手軽さもあります。

宣伝方法

美術館で開催される大型企画展、特別展の際に、チケットと共にアプリのパンフレットを配布します。(図5)

芸術作品の解説を読むことができる「解説」機能を売りにして、「さがす」機能で美術館周辺にあるギャラリーへ誘導します。

もちろんギャラリーでも「解説」機能を使うことができます。

美術館側にもギャラリー側にもパンフレットを置くことで、どちらを訪れた人にも知ってもらうことができれば、双方向に次のようなメリットがあります。

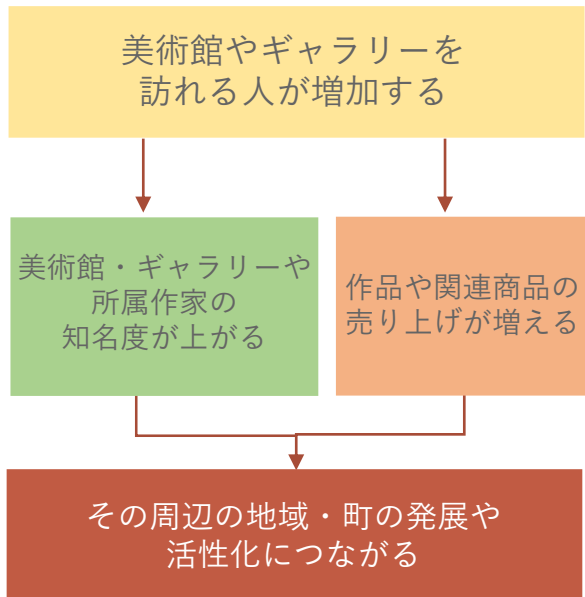
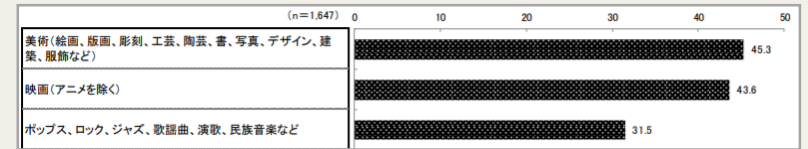


図5 アプリのパンフレットイメージ

まとめ

以下のグラフは、過去1年間で鑑賞した芸術のジャンルのアンケート結果です。美術が1位にきています。



鑑賞した文化芸術のジャンル(複数回答)

グラフから、美術に関心を持っている人自体はとて多いことがわかります。今回は、こういった方々を主なターゲットとして企画を考えていきましたが、現代アートに触れたことがない方にも、このアプリがきっかけとなって興味を持ってもらいたい!と思い、試行錯誤を重ねていきました。

似たような機能のアプリはたくさんありますが、どのアプリも画廊(ギャラリー)の情報が載っていなかったり、現代アートの情報や機能が少ないものばかりです。

もし、自分の好みに合った展覧会の情報を便利に知ることが出来たら……。

旅行先で手軽にギャラリーを探すことが出来たら……。

そんな気持ちから、このアプリを思いつきました。芸術作品の解説、販売、おすすめ展覧会など、様々な方面からアプローチすることで、現代アートに興味を持っていただくことが目的のアプリです。

アンケート出典: 文化に関する世論調査 報告書 平成31年 文化庁
https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/pdf/r1393020_01.pdf
 ※グラフは加工して使用しています。

※ロゴマークやアイコンは個人で制作したものやフリー素材を使用しています。
 ※写真は個人で撮影したものやフリー素材を使用しています。

日本電子専門学校 AIシステム科1年 半田梨音